

## I 目指す学校

### 1 スクール・ミッション

「敬愛・誠実・努力」の校訓のもとに、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備え、知徳体の調和のとれた心身ともに健康な若人の育成を教育目標とし、1年次からの少人数指導や進路ノートを活用した進路指導等の教育活動を通して、人々に愛され、社会に貢献できる人間を育成します。

### 2 教育目標

- (1) 歴史と伝統を受け継ぎ、学校生活を通して様々な経験をさせ、自己肯定感や他者と協力する態度を身に付けさせる。
- (2) 豊かな個性と自主・自立の精神を備え、互いの人格を敬い、社会に貢献する力や社会に出た後も学び続けようとする資質・能力を育成する。

### 3 スクール・ポリシー

アドミッション・ポリシー  
(求める入学生の姿)

・基本的な生活習慣の確立を大切に、自己の目標を具体的に定め、その実現のために日々の学校生活を意欲的に送ることができる生徒や、学校内外の活動に積極的に取り組み、コミュニケーション能力を向上させようとする生徒の入学を期待する。

「わかる」「まもる」「つかむ」「つなぐ」

カリキュラム・ポリシー  
(教育課程の編成及び実施)

・生徒の学習意欲を喚起し、習熟度別や少人数制授業により基礎基本の定着から将来に必要となる学問へと発展させ、確かな学力をつけさせるとともに、生徒と教員が一体となって学校行事や部活動を活性化させ、学ぶ喜び、向上心、達成感を体得させ、心身ともに健康で、自己の能力、興味・関心に応じて自ら学ぶ態度を育成するための教育活動を展開する。

グラデュエーション・ポリシー  
(育成を目指す資質・能力)

・社会の一員としての自覚を持ち、ルールやマナーを身に付け、自他を認め、互いに尊重し協力する態度を育成するとともに、自分自身の考えや意見をもち、相手に的確に伝えたり、自己の目標を実現したりするために自ら学び続け、社会に貢献しようとする志を育成する。

## II 中期的目標と方策

目標	方策
ア 学習の保障→「わかる」 基礎学力の定着と進路実現につながる学力向上 探究的かつ教科横断的なキャリア教育	①授業：習熟度別・少人数編成の実現、実験・実習の重視、デジタル機器の活用推進 ②補習・講習：平常時・考査前・長期休業中の計画的実施、進路実現のための指導方法の工夫 ③探究：「社会に貢献できる人間」であることを考え実践する力の育成
イ 指導の一体化→「まもる」 規範意識の醸成と自他の尊重 安心安全で居心地のよい学校づくり	①生活指導・進路指導と学習指導の一体化 ②特別活動を通じた役割意識の醸成と成功体験 ③TPOに応じたマナーの意識の育成

<p>ウ 情報化・国際化の推進→「つかむ」 デジタルスキル、グローバルスキルの向上 多様性への理解と共生社会の推進</p>	<p>①一人1台端末の効果的活用の推進 ②拙くても伝えようと努力する英語活用への取組 ③様々な公開事業への参加や日常のHR、生徒会活動等を通じ、いじめや差別根絶への理解を促進</p>
<p>エ 心身の強化と社会資源との連携→「つなぐ」 基本的生活習慣の確立と体力増強 校内外の資源との適切な連携構築</p>	<p>①特別活動、部活動への積極的参加の促進 ②保護者連携の推進 ③医療、福祉、カウンセリング、ソーシャルワーク等の専門性の高い人材や組織・機関との連携 ④SNS等の適正利用指導と躊躇しないSOS発信力の育成 ⑤地域連携の促進による学校の存在感向上</p>

### Ⅲ 今年度の取組目標と方策、数値目標

	目標	方策
<p>(1) 教育活動 ・ 学校経営全般</p>	<p>ア 様々な文化のシャワーを惜しみなく注ぎかけることで、在学中の学習意欲を喚起し、卒業後も生涯に渡り学び考え行動できる生徒を育てる。 イ 全ての教職員が主体的に学校経営参画意識をもち、それぞれの役割を確実に果たしながら、建設的な改善提案のできる職場風土を醸成する。 ウ 服務事故ゼロ、学校事故ゼロを実現する。  エ 生徒の心身の健康保持増進のために、教育活動に取り組む教職員の適正なライフ・ワーク・バランスを図る。  オ 経営企画室機能を最大限活用し、人財や施設設備等の校内資源を最大限活用しながら、教育環境の向上を図る。</p>	<p>① 東京都教育委員会による指定校等の取組と教育課程との確実な連携を図る。  ②企画調整会議、教科会、各種委員会の機能強化を図り効果的な校内研修を実施する。主幹教諭による適切な進行管理の下、職責を意識し主体的に職務を遂行する。 ③教職員が高い倫理観と公務員としての自覚を持ち、体罰や個人情報紛失等の不適正事象を起こさない職場環境を維持する。常に生徒の安全に配慮した予防的開発的指導を行い、学校事故を防止する。 ④教育ダッシュボードによる分析と TEAMS・classi の活用により超過勤務を削減する。部活動の休養日設定を必須とし、生徒の健康を守り視野を拓げる時間を確保すると共に、教員の連続勤務を防止する。 ⑤職員室と経営企画室の連携を推進し、清潔で安全な学校施設を維持する。自律経営予算を適切に執行管理するだけでなく、生徒会や学年積立金等の私費についても適正に管理し活用する。</p>
	<p>・ 指定校催事参加希望生徒 10 名以上</p>	<p>・ 教職員の年休取得平均 15 日以上</p>
<p>(2) 学習指導</p>	<p>「わかる」 ア 日々の授業を大切にすることで基礎基本の学力の確実な定着を図る。粘り強い指導で生徒の転退学を減少させる。 イ 知識・技能だけでなく主体的に学びに向かう力を育成し、自ら考えて課題解決に至ることができるよう、思考力・判断力・表現力を鍛える。</p>	<p>①授業規律を維持し、毎回の授業時間中に学びの実感を得させる。「生徒による授業評価」を活用する等、教科会では進度調整だけでなく、効果的な指導法の共有や研修を行う。 ②グループ形式の討論・発表・レポート作成等、個人にとどまらず他者との交流を通じて、多様な価値観に触れ、考える機会を設定する。生徒が自己の変容を記録し振り返りができる工夫をする。</p>

	<p>ウ 情報機器を適切に活用し、収集した情報について有用性や正誤の判断を自ら行いながら取捨選択して理解を深め、発信ができる力をつける。</p> <p>エ 図書館を活用し、文化や芸術に関する知見を広めるとともに、自分の考えの根拠を発信する表現力を育成する。</p>	<p>③双方向オンライン授業の実践、端末による課題発出と提出、画像による実験実習の記録と考察等、単純な機器操作にとどまらない機器活用を実践する。</p> <p>④読書推進月間を組織的計画的に実施し、生徒が生徒に読書を勧める掲示物の作成やビブリオバトル等の表現の場を設定する。</p>
<p>・ 教員相互の授業参観一人学期ごとに2回以上</p>		<p>・ 生徒の「学力がついた」と感じる割合60%以上</p>
<p>(3) 生活 指導</p>	<p>「まもる」</p> <p>ア ルールとマナーの必要性を理解させ、人権と生命を尊重する、礼儀正しい森高生であることを求め続ける。</p> <p>イ TPOに応じた身だしなみや所作について、教員の一方的指導によらず、生徒が考える機会を設定する。</p> <p>ウ 生徒が自らの未熟さと相手の立場とを理解し、適切なコミュニケーションがとれるように考えたり実践したりする場を設ける。</p> <p>エ 時間を意識して行動し、準備を怠らない。</p> <p>オ 清掃や整頓に進んで取り組み、居心地のよい校内環境を維持する。</p>	<p>① 生徒、教職員共に挨拶を励行し、教職員が大人として生徒のよきモデルとなる言動を取る。自らの命を守る自転車乗車時ヘルメット着用推進を継続する。</p> <p>②HRや行事、生徒会活動等を通じ、制服を正しく着こなすことが、学校生活への自分の意識の変容と他人からの評価とに影響することを、生徒に考えさせる機会を作る。</p> <p>③特別活動や部活動等、様々な機会をとらえ、人間関係の構築には、適切な距離感や言動が必要であることを学ばせる。特にSNS利用について、適切な在り方の指導が求められる。</p> <p>④遅刻欠席の削減、授業規律の維持に取り組む。規則正しい生活習慣が転退学防止につながる。</p> <p>⑤HRを中心に、当番だけでなく全員が協力できる利他の意識を育成し行動させる。</p>
<p>・ 特別指導年間10件以下</p>		<p>・ 遅刻者数1クラス1日2人以下</p>
<p>(4) 進路 指導</p>	<p>「つかむ」</p> <p>ア キャリア教育の観点から「人間と社会」「総合的な探究の時間」と意図的計画的に関連付け、単なる出口指導にとどまらない進路指導を行う。</p> <p>イ 学年進行に応じた計画的な指導を行い、個に応じた丁寧な対応を継続することで、高い進路希望を諦めさせない。安易に転退学の選択をさせない。</p> <p>ウ 進路実現が日々の学習や学校生活と一体化したものであることを意識づける。</p> <p>エ 公募される様々な機会をとらえ、生徒にとって生涯にわたり知識を広め経験を深めるチャンスであることを教職員が意識し、紹介する。</p> <p>オ グローバル人材としての基礎力を育成する機会に積極的かつ主体的参加を促進する。</p>	<p>①進路指導部と学年との連携を密にし、迅速に情報と指導計画を共有し目標と成果の点検、改善を行う。「スキルアップ推進校」の取組を活用する。資格取得を推進する。</p> <p>②中学段階で作成したキャリアパスポートを踏まえ、本校の「進路ノート」が高校段階のキャリアパスポートとなるべく、3年間のポートフォリオ化を図る。</p> <p>③各学年で保護者会だけでなく必ず三者面談を実施し、生徒・保護者との認識のずれを防止する。進路保護者会を開催し、保護者の進路学習の場とする。</p> <p>④本校の指定校としての取組と「人社」「探究」との意図的関連付けを図る。都の推進事業等、希望者参加型の取組にも積極的な興味関心を持たせる。</p> <p>⑤TGG、JICA等の訪問や英検挑戦、生徒海外派遣の機会等に主体的に取り組みさせる。</p>
<p>・ ジョブキャンプ参加者10名以上</p>		<p>・ 進路決定率90%以上</p>

<p>(5) 特別活動 ・ 部活動 ・ 教育相談</p>	<p>「つなぐ」</p> <p>ア 教職員は正しく「いじめ」の定義を理解し、生徒間のいじめ防止、早期発見、早期対応に取り組む。</p> <p>イ HRや行事を通じ、協力や助け合いの経験を通じ多様な価値観や立場の違いを知り、社会で生きる力を育成する。</p> <p>ウ 安全教育推進校として防災教育の充実に取り組む。</p> <p>エ 自己の興味・関心に応じて文化・スポーツを楽しんだり、努力して成果を得る体験をしたりする場を多数設定し、学校の居心地を高め、心身ともに健康で明るい学校生活にする。</p> <p>オ 特別支援教育への理解を深め、組織的な教育相談体制を構築する。</p>	<p>①「生徒指導提要」「いじめ総合対策」等の基本事項を踏まえ、本校の学校安全計画・人権教育の全体計画等を推進する。</p> <p>②体育祭・文化祭・修学旅行という大きな柱となる行事において取組目標を明確にした指導を行い、「人社」「探究」との意図的関連付けを図る。</p> <p>③生徒だけでなく教職員が自校の防災関連資源に習熟し、既存の防災訓練の内容の充実を図る。自助共助の考えに基づき、自らの生命を守るだけでなく、地域連携や奉仕的活動等の社会に貢献する意識を育成する。</p> <p>④「体育健康教育推進校」「S I P拠点校」等の指定を活用し、生徒の多様なニーズに応じた活動を提供する。また、部活動に積極的に所属し活動することを通じ、技術の向上や達成感だけでなく、良好な人間関係の構築や自己有用感の体得の場とする。</p> <p>⑤特別支援学校との地域ネットワークを活用して発達特性への適切な対応への理解を深める。また、自立支援チーム継続派遣校として、スクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーと連携して生徒を支援し、転退学の防止を図る。全校教育支援委員会を定期的を開催して生徒情報を共有し、適切な指導が行えるようにする。</p>
<p>・部活動加入率65%以上 ・(全校)教育支援委員会参加率90%以上 ・中途退学者数10名以下</p>		
<p>(6) 募集 広報 活動</p>	<p>ア 学校説明会・見学会だけでなく、中学校訪問や地域交流行事等に積極的に参加し、学校の露出を増やす。</p> <p>イ 生徒の姿が見える広報活動を意図的に計画する。</p> <p>ウ 学校ホームページだけでなく、SNSを活用し、積極的な情報発信を行う。</p> <p>エ 視覚情報の充実した広報媒体を作成する。</p> <p>オ 入選方式について不断の検討を行う。</p>	<p>①教職員全員が複数回参加の全校態勢で取り組む。部活動体験や町会企画の行事に参加するだけでなく、自校企画で小・中学生とのスポーツ・文化交流を行う。</p> <p>②地域に支えられ選ばれる学校となるために、教育活動を積極的に公開する。説明会・見学会の際は、生徒の役割分担を設定する。</p> <p>③「都立学校魅力発信事業」による広報媒体と積極的にリンクさせる。機を逃さず随時情報の更新を図る。</p> <p>④受け手の立場になって考え、ポスターやパンフレットの質を高める。</p> <p>⑤文化・スポーツ等特別推薦等、倍率向上のため、検討の余地を探る。</p>
<p>・地域交流行事年間3回以上 ・HP、Instagram更新200回</p>		